

いざさらば 四十期生




發行  
洛星新聞局  
☎ (463) 3281 (代)  
印刷／(有)片桐輕印刷

二六一人、新天地へ旅立つ

卒業証書は五十分余りか  
けて一人一人に授与された  
その後、皆勤賞・精勤賞  
の表彰が行われ、つづいて  
H2Bの高木聡君が在校生  
の言葉として、

---

に桜の木と、大講堂の照明  
を操作するライティング  
ボードが贈られた。



四十期生が式場である大講堂に入場すると、式に先立つてベネディクション（聖体降福式）が行われ、式が始まった。まずはラバティ校長先生が、「昨年の十二月に亡くなった谷口忠典君も共に卒業すること」を述べた後、卒業生に「二番目の夢ではなく、一番目の夢を叶える人でありなさい」「自分がベストを尽くしたことにだけ満足しなさい」という二つの言葉を贈り、激励した。

「四十期生のみなさんは、リーダーシップを発揮し、文化祭・体育祭を成功させ、諸方面で後輩を指導して下さいました。今度は私たちがその大役を担っていきましょう。」と述べ、卒業生の言葉はHⅢEの申宏之君が「これからは激動の社会となるでしょうが、その中で洛星で得たものを活かして頑張っていきたいと思います。」と述べた。

卒業記念品として、校庭



の老子のことはには、大人物は性急に完成しないで、ずっと成長しつづけ大きくなっていくという解釈もあります。私はこの解釈が好きです。先日テレビ番組で七十一歳のロシア人バレリーナの、今もなお新しい作品に挑戦する姿がとりあげられていました。彼女が美しく輝いていました。まさに「晩成」。現状に甘んじず、さらなるステップへ一歩を踏み出そうとしている姿は感動を与えます。

皆さんはこれから大学合格、就職、結婚と一つずつハードルを越していく中で、しょうが、これで完成、と限りをとけず、常に前を向いて大きくなりつづけて下さい。年を重ねるにつれ輝きを増していけるよう、

ひと抄録



▲山田大裕君

「高校三年　山田大裕君」  
彼はど部活に熱心になが  
いたであろうか。高三になつ  
ても必ず部活に顔を出す人  
は珍しい。皆無といつても  
よいだろう。なぜ彼はこれ  
ほど活き活きと学校生活を  
送ることができるのだろうか  
か。彼の人となりに迫つて  
みよう。

彼の夢は弁理士。あまり  
耳慣れない職業である。そ

の業務内容は、特許・実用新案・意匠・商標などに關し、特許方に対する申請や出願などの代理をすることである。この職業にたずさわる人は少数で、採用試験も毎回九十名程の募集と、狭き門。だが彼はこの職業こそ明日の日本を担うものだと考えている。なぜなら、これからの日本は高付加価値のある商品を取り扱うことが多くなり、弁理士は榮えるからだ、と彼は語る。さらに聞くところによると給料もいらいしい。

自己PRは横顔だそうだが、部の後輩や同級生からは「タヌキ」とか「ブーちゃん」などと呼ばれ、本名が忘れ

られてゐる感はあるが、本人は気にしてゐるのか、いいの。


生徒会活動も積極的で、高一後期、高二前期は会計委員長、後期は監査局長も努めた。部活は中二から生物部に入部、様々なパートを転々として、実質部長の地位についていた。生物部の業績の中でも、吸光計を製作したのが自慢だそうだが、高一のときには、タブローで聖書朗読者の大役を請け負つたり、合唱パートにも参加したりと、学校規模の行事においての活躍も見のせなない。

志望大学は東京大学理Ⅰ彼は大学合格を弁理士にな

るための第一段階と考え、  
大いなる目標に向かって邁  
進中である。

彼は生物部の後輩に次の  
ように語っている。

「地道に努力して下さい。」  
最後に一言をと頼んだ。  
「もっと自由に、もっとア  
クティブに生きましよう。」  
説得力のある言葉がかえっ  
てきた。



笠 一九九七年一月十七日、阪神・淡路地区の人々は被災から二年目を迎えた。今なお多くの人々が仮設住宅での生活を余儀なくされている。しかし、そんな生活の中でも力を合わせている。しかし、そんな生活をしている人々の中には、文字を読めない人々のために文字教室を始めた作家や、技術教室を開いた人もいた。それらの教室では被災した人々が互いに励まし合い、震災で受けた傷を癒しながら、文字や技術を熱心に学んでいる▼ところで先日の特集「カール・ラモントによる日本海へ

## H III A担任

小田 恵先生

「大器晚成」——これは卒業アルバムの寄せ書きの中心に選んだことばです。これを出遅れた者の負け惜しみのようなものだと解釈する人も少なくないようです。高齡化が進む時代、あわてずどっしり構えたい

## HIV 担任

四十期の人たちへ  
卒業おめでとう。君達とは約三年程のつき合いでした。中村先生が口癖のように「この学年はとにかく勉強へのとりくみが違う」と云われていたので、私もその気になって観察をし、少

シを下さいました。社会へ出て多方面で活躍する中でこれを役立てて下さい。

**HⅢC担任**  
**中村義弘先生**  
「何故」

H  
III  
C担任

中村義弘先生  
「何故」  
我国はこの五十年、物質

卒業生に贈る

文明を重視し、それまでに  
なかつた自由と経済的繁栄  
を手に入れたが、失うもの  
も少くなかつた。

担任

手塚俊之先生

修道院の前に刻まれている「子供たちを私の方へ来させなさい」という言葉を重く見るたびに、谷口忠典君のこのことを思い出します。重い病にも負けず、学習への意欲を失わず、学校に通い続ける谷口君、それを助けたお父様、お母様、そして友人達の姿はこの言葉の優れた実践であったと思います。

確かに、彼の人生はとてども

## H III E担任

寺田俊朗先生

「思いきつて賢くあれ。自分の知性を使う勇氣をもて。」時代錯誤は承知の上で、この標語を君たちに贈りたい、否、君たちと共に噛み締めたい。我われがこれまで積んできた勉強は、自分の知性を使う術を身につけるためであつたと言つても過言ではない。もし勇氣が欠けてゐるために自分の知性を使うことができないとすれば、我われはいつまでも大人の導きを必要とする子供の身分に甘んじることになる。子供の身分もそれなりに快いものではある。しかし、それは大人の自由な身分とは根本的に異なるものである。

## H Ⅲ F 担任

藤田行男先生

大学生の時米国の大学から幸運にも非常に条件のよい奨学金のお話がありました。街外れの取り越え苦勞さえも私には「もし成績が悪かったら、もし卒業できなかつたら……日本人の顔をうつばつてしまふ」などなどこまな思考を重ねたうえで、お断りすることにしました。しかしその時大愛お世話になっていたアメリカカカのようなこととを忠告されました。「人生にはいろんなチャンスが訪れる。それをつかむこともできるから見逃すこともできる」ただ常にこのチャンスは一回きりなんだぞと言いつつ、選択をし人生を歩んでいくべきなんだ。NOW on NEVER なんだよ。これから人生で、諸君は大小多数多くの選択をしなければならぬでしょう、自らにかけられることによってしたたか」

衣 笠

**笠** 一九九七年一月十七日、阪神・淡路地区の人々は被災から二年目を迎えた。今なお多くの人々が仮設住宅での生活を余儀なくされてゐる。しかし、そんな生活の中でも力を合わせている。▼文字を読めず、▼文字や技術を熱心に学んでいる▼とこころで先日のタカノカー座礁による日本海への重油の流出事故はまだ解明されていない人々のために文字教室を始めた作家や、技術教室を開いた人もいそうだ。それらの教室では被災した人々が互いに励まし合い、震災で受けた傷を癒しながら、突然降りかかった災難にとまよひながらもお互いに助け合ひたい、地道に回収作業を進めているのだ▼状況が違ふと、これらの二つのケースは多くの共通点がある。予期せぬ災難の前にある。行政の災害対策の甘さや対応が遅いと言わざるを得ないものである。震災のケースでは都市部の再建を急ぎ、経済的に弱い立場の人に人々への補助がいきとどいていなかった。都市だけが復興しても、そこに住む人々の生活が荒んでいては本末転倒である。また、重油流出事故のケースでも、ボランティアまでという感情が試えないう「政治」の定数は「人々の要求を調整」を考えたとき、政府や自治体はその役割を、この二つのケースに限らず、十分果たしているといえるだろうか。

**衣** 選択の結果はどうあれ納得のいくものであるだろうと思います。お元気で。



## —卒業生の言葉—

聞け！！  
魂の叫び

良し  
山本 トシ  
胸毛がはえてきた。大人になつた。  
山本 英明







後期中間試験終了が十二月十七日、この日に行われた第一回全体会議からタブローは本格的に始まった。今年度は十八日と十九日が各パートの準備期間に与えられ、舞台練習は二十日からであった。キャスト・スタッフは例年より一日分多い舞台練習に余裕をもつて臨めたようだ。

### 演出パート

タブローは今年度で三十一回目を迎えた。

### 演出監督パート

次期チーフ 堤 文孝

九十六年度における最大の出来事といえば、総務が新しくなったことであろう。きついものはいないです。でも音がうるさいんです。パワーがあまり余っているんでしよう。はじめは「ガッちゃん、ガッちゃん」音がしました。しかし、それは岸根先生に上手に直して致しました。どうもありがとうございました。

### 総務パート

次期チーフ 中嶋 安隆

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

### 照明パート

照明パートの仕事は、その名の通りタブローでの照明装置全体を扱うパートで、このパートに参加する人は主に、舞台上と天井の照明の調整、換などを行う舞台照明パート、すべての照明の電源を調整し、ダンスで

### 効果パート

「うちのパートの仕事は、それは主にマイクの設置などの音響関係と、BGMを流すこと、二つである。言ってみれば完全な裏方で、お客様からは影すら見えない。」今年度のタブローの効果パートの責任者は効果パートについてこう語っている。

### 衣装・小道具パート

衣装・小道具パートは、キャストの衣装合わせや劇の中で必要となる火・三博士を導く星などの小道具の制作、セッティングを主な仕事とするパートである。

### 聖書朗読パート

聖書朗読パート(キャストとして扱われるときもある)は、スタッフ扱いのときもある。

# タブロー特集

しました。が、本番はたいした失敗もなく出来たと言えよう。また、いくつかが大講堂にいった問題も来年度までには改善されよう。タブローのいちばんおもしろい所は、どんなパートにいても、大講堂のウラの顔を知ることができ、高IIから中IIまで新しい縦のつながりができることだと思っていいます。つまり、新しい先輩と後輩との関係が築かれるのです。ただ、どのパートも学年が上になればなるほど経験が必要となってくるので同じパートを続けていこうという思いがあります。今年度のタブローの照明パートは、卒業生の方々の御好意でいただいた新機材を使っている。総務・新しいもの導入して、総務・衣装・松永寛雄、メインチーフ・栗山勝利、スポーツチーフ・吉岡匠の四人と、その他大勢でタブロー成功にむけて頑張ります。

の各パートに指示を出し、全体のタイミングを調節する。という、地味ではあるものの大変重要なものである。今年度においては、このパートには大きなミスもなく正確に指示を出し続けられて、特に照明や朗読のパートは十二月二十四日のタブロー本番でも滞ることなく円滑に進行した。来年度チーフの神高謙君によると、「来年度こそは小さなミスも少ないようにしたい。人数面での不安は特にないが新中一生を中心にやる気のある人を募集していこう」とのこと。

道具パートを助けてくださったというロキナルドがカナダに帰国なさったこと、衣装・小道具パート責任者HICの山賀君は、「衣装の着せ方などはバルナルドさんの方が数段上手だったが、何とか自分達の経験だけでがんばってすることができた。」と、今年度のタブローを振り返った。

あることは言うまでもない。聖母にふさわしい品位と落ち着いた求められる役で、今年の門脇君はうまく演じていた。マリヤといえは次に出て来るのが二幕の大天使達。大天使は威厳を求められる。また、全員でタイミングをとらねばならないシーンが多く、チームプレイも必要とされる。中一のキャストの最大の目玉がダンサーとリトルドラマーボーイ。あの八幕のゆかいな踊りは毎年我々を魅了してくれる。次に、各場面でも舞台効果をひきたてる役割を果たしているのが村人である。役割はちがうものの羊飼いと共にかなり難しい役の一つだ。彼等とは対照的に人々の注目の的となるのが三博士とその従者。博士の重々しさと従者のかわいらしさの対比、そして度肝を抜く登場のシーンが人気の秘密である。そして博士達の登場の後、二人のソルジャーを従えたヘロデ王。登場する

もあるという不思議なパートは、朗読者二名と演出二名のあわせて四名で構成されている。他のパートに比べて人員は圧倒的に少ない。しかし聖書朗読は、タブローという降誕劇のいわば解説者なのである。その占める役割の大きいことは言うまでもない。

タブローは今年度で三十一回目を迎えた。当初四幕だったタブローはいまや八幕の大舞台となった。その舞台の上で演技するキャストを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

96 クリスマス タブロー

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。

タブローはタブローを影から支えるのが演出パートである。この演出パートはタブロー全体のまとめ役。そのチーフはタブローの代表であり、総務責任者である。演出は裏方のキャストであると言え、その具体的な仕事の内容を説明しよう。





流れたが、それ以降に登校した生徒も少数ながらおり、「学校に着くと、もう誰もいなかった。うれしいやら悲しいやら……」と、複雑な表情だった。

また、休校がとり決まるとすぐに雪合戦を楽しみ生徒もいた。

Ⅱ写真





# Who's this?

第16回



「ピント」これは難しい。写真の方もお手上げといった表情なので、ピントをひとつ出しましょう。この先生は洪い声の持ち主です。

合つて喜ぶ受験生もあり、悲喜こももとの光景が見られた。

一方、高校の願書数は百五十四人で、これは昨年度の二百二十人のちょうど七割で中学と同様、少数激戦の傾向が強まった。

高校の合格発表は二月七日に行われ、受験者百四十八人から百九人が合格した。競争率は一・三六倍であった。

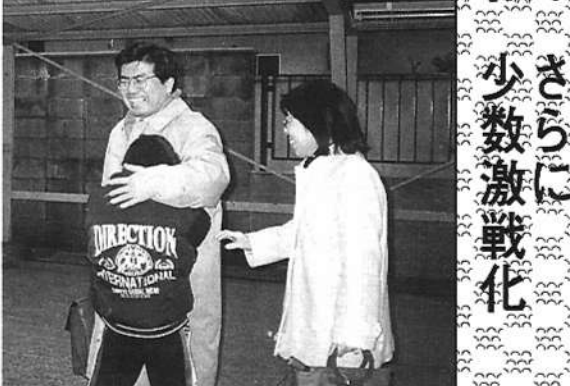
## 音楽鑑賞 行わる

去る二月二十一日、大講堂で音楽団体鑑賞が行われた。

この団体鑑賞は、国際親善コンサートに由来する「パリ仏独合唱団」と「ボン少年オーケストラ」を本校に迎えて行われたもので生徒は格調高い音楽に真剣に聞き入っていた。

# 中高入試

さらに少数激戦化



今年度の中学入試は昨年度と同じ二月二十九・三十日に、また高校入試は昨年度より十日時期が早まって、五・六日に実施された。

中学の願書数は昨年度の六百八十八人に比べて五百九十九人と落ち込み、受験者数は五百十三人であった。合格者数は二百三十五人(十五人減)で競争率は二・一八倍であった。

中学の合格発表は一月三十一日午後五時から行われた。三枚にわかれた合格発表の掲示板が一枚ずつ掛けられ、その度に歓声が沸き上がった。なかには抱き

洛星公演は特別プログラムで行われた。パリ仏独合唱団の無伴奏の合唱では、フランス語をはじめとするドイツ語、イタリア語、ラテン語、日本語などの様々な言語での合唱曲が、またボン少年オーケストラによる演奏では、ブラームス作曲の「ヴァイオリン協奏曲二長調」作品七十七より3楽章などのオーケストラ曲が披露された。

なお、国際親善コンサートは同日の午後六時半から京都府会館第二ホールで開かれた。

## 重油流出 ボランティア

一月四日、日本海でロシアの重油タンカー「ナホトカ」号が座礁して多量の重油が流出し、各報道機関でも大きく報じられた。座礁したタンカーは船首部分が割れて福井県三国町の海岸に流れ着き、残りの部分は海底六百メートルに沈んでいて引き上げのめどはたっていない。

流出した油は、西は島根から東は新潟までの日本海岸一帯に及び、各地の漁村に大きな被害を及ぼしている。これに対し政府は十日に委員会を設置したものの、流出した重油の回収作業は現地の人々やボランティアに頼らざるを得ない状況である。本校でも二月二日、宗教部の呼びかけにより重油回収ボランティアの人員が募集された。当日は京都府の高校から計約四百名が参加して回収作業にあたった。

宗教部長の阿南先生は、「本校からの参加者は結果的にわずか一人であったが、学校で募集した日以外にも個人的に参加した生徒もおり、そういった部分での活動も含めて積極的に参加してほしい」と語っておられる。

「ピント」これは難しい。写真の方もお手上げといった表情なので、ピントをひとつ出しましょう。この先生は洪い声の持ち主です。

激しくぶつかり合う剣戟の音。舞い上がる血しぶき。そして断末魔の叫び。そういったものを感ぜながら張達は大抵にその狂気に飲まれていた。くちくちと皆殺しだ。戦いは初めから劉備軍優勢であった。実はこの時曹操軍は赤壁で劉備・孫権連合軍に大敗して逃走してきたところだったのである。張達も下士官には知られていなかったが彼らの属する張飛隊の任務は敗走する曹軍の待ち伏せであった。

「いたぞ! 曹操だ! 俺に続け!」

大将・張飛の大声に「一瞬間は理性を取り戻す。しかしまたすぐに狂気の衝動に身を委ねる。と、突然彼の前方にいた部下の首が鮮血とともにねえ飛んだ。倒れる部下の身体に向こうに一人の巨漢が戦を持ち、眼光鋭く切りをならみつける。曹操軍名うての勇将、許褚であった。

「許褚仲康これにあり! 曹丞相のところに一兵たりとも行かせん!」

そう叫ぶや否や許褚は戦をふる。豪快な旋回音とともに劉備軍の兵士達がばたばたと倒れていく。しかば理性を失った兵士達は次々と突っこんでいく。張達とて例外ではない。張ああああ。許褚の戦が迫

「前回までのあらすじ」

二世紀末、漢王朝は衰退し、中国全土は戦乱の日々が続いていた。両軍を敵に殺された張達は劉備率いる乱世を正さんとする義勇軍に参加し、兵士としての人生を歩んでいた。そんなある日、張達の部隊は出陣を命じられ、曹操軍と遭遇する。

「くちくち。俺もこれまた時、天まで届くかの如き大音声が響き渡った。

「おうりやあああつ! 蒸人張飛これにあり! 許褚、俺と一騎打ちせよ!」

「逆賊張飛、曹丞相はこの許褚が命に替えてもお守りいたします!」

許褚は戦を軽くくり出す。張飛は戦をささつかわずと愛用の蛇矛をびゅつと一突き。許褚はそれをはいじりて攻撃をくり出した。が、張飛はとくに計算済みであつたようで、許褚の手元を狙って斬りつけた。許褚は左手の中指を斬り落とされ戦を取り落としてしまつたが、許褚危うしと見て加勢にきた仲間の将・張達に戦を投げ渡され、一騎打ちに復帰した。これには張達に復讐した。これには張達の他に、同じく曹軍の将・徐晃も加わつた。

張達・徐晃の二将はともにも勇猛無比なる猛将であつた。しかし、一度に三人を相手にしながら張飛は一歩もひけをとらなかつた。魔神の如き形相で闘う張飛を眺め、張達は戦慄を覚えた。俺達の大將は人ではないのかもしれん。ふと気付くと周りの兵士達は戦いをやめていた。敵も味方も固唾を飲んでこの劇闘の行方を見守っている。

だが、ついに張飛の蛇矛がうなりをあげて張達を直撃、張達は許けき声をあげて落馬した。許褚・徐晃は驚いて、落馬した張達をかばいながら、応戦していたが、退却の銅鑼が鳴つたのでそれぞれの陣に退却した。張達も手近にいた劉備軍の

将校を斬り殺し馬を奪つて退却した。舞い上がる血煙を見た兵士達ははつと我に返つた。曹操軍は我先にと逃げ出した。劉備軍はその後を追うだけである。劉備軍の完勝であつた。

帰還後、劉備軍の兵士達には祝いの酒があるまわられた。張達は戦利品を分けあつた後、兵舎の一角で酒盛を始めた。

「今回は本当に九死に一生を得たものだ。」

張達は范疆と杯を交わしながらふと宙を仰いでそうつづやいた。事実、肩の傷は致命傷にはならなかつたものの半年の療養を要するものであつた。

「しかし張達、あのような猛将で、できれば戦場では出会いたくないものだ。」

「ああ、それにしても張飛將軍はすこつた。あの猛将を退けたばかりか一人で三人と渡りあつたんだ。あの方、凄まじき目をした。たのは今回が初めてというわけではないが今度ばかりは……さうさ、寒気のようなものを感じたよな。」

「あの方は魔神かもしれん。訓練の時も怖ろしいしな……。」

「うむ……。」

「あの、ちよつとすいません。」

二人の会話に、隅の方で一人で飲んでいた若い兵士が割つて入りこんできた。

「私は入隊したばかりですが張飛様の訓練というの、はそんなにも厳しいのでしょうか。」

「ああ、あの方は訓練の時と酒を飲んだ時は兵士を引つ張たく癖がおりやな。あの癖を出されると痛いやら怖ろしいやら……。」

「おい、范疆。」

張達は上官への愚痴じみた発言に釘をさした。范疆は驚いて、落馬した張達をかばいながら、応戦していたが、退却の銅鑼が鳴つたのでそれぞれの陣に退却した。張達も手近にいた劉備軍の

三人はしばらく杯を交わし続けた。もう飲めませんので失礼します。」

やあつて若者が席を立つた。二人と分かれて兵舎を出ると、一人の童子が若者に近付き、何事かささやく。若者はうなずくと近くの幕舎の裏口から入り、兵服を脱いで鶴鶴と呼ばれる道服に着替えた。そして頭巾を脱いだらいて幕舎の正面へ通じる扉を開けへ入った。その部屋に待っていたのは劉備軍將軍の一人・趙雲であつた。

「趙雲將軍、お待ちして申し訳ない。」

「軍師殿はどちらへお出かけでございしたか?」

「それがしは忍んで軍中を視察して参りました。ところで將軍、貴公に攻めて頂きたい所があります。」

若者・劉備軍參謀長・諸葛孔明は言った。

「どこなりと申し付け下され。」

「荆洲南部の桂陽。これを攻めて頂きたい。」

「はあ南部でござるか? しかし南部は攻むるに易く守るに難う地でございます。我が君の本拠とするには不適か……。」

「もとよりそれがしもそのつもり。南部は一時の落ち着き先に過ぎませぬ。我が君の本拠には益洲がよいかと考えております。」

「おお、益洲!」

趙雲の目が輝きはじめた。

「左様! 益洲は要害の地、氣候おだやかにして住民多く、曹操、孫権と相対する力をもつには我らは是非でも手に入れたければなりませぬ!」

そう言つて若き大軍師は満天の星を指し上げた。華北を押さえる曹操、江南を占める孫権。この二大勢力に比べると劉備はあまりに無力で弱小であつた。が、おのが主君を支える決意が彼の双眼にみなぎつていた。

「分かつています。」

「昔のこと」

「まぶしいかも」(W)

実は泣きたかつたり、傷つきたかつたりした。

☆高1のH・M君の輝かしい業績の数々……

一・コッポで10辛のカレーをたいたらげる。

二・逆パンジーに挑戦。「命知らず証明証」を手に入れる。

三・大雪の日、雪合戦に熱中し、筋肉痛に苦しむ。

★吹きたる夜風の中に浮き上がる金色の月。その戦士は白馬にまたがり頂きに立つ。その手にきらめく青白き剣。愛馬を駆りかける。斬! 斬! 斬! ミス……。

ウオオオ。一枚目すつて越せねえぞ。どうなつてんじや。正義が足りないのか……。

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

来年度の発行予定

①一五六号 2面 六月上旬

②一五七号 2面 七月中旬

③一五八号 2面 九月上旬

④一五九号 4面 十二月中旬

⑤一六〇号 4面 九八年三月中旬

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

# 連載 江中の華 第二回

安達曜理・作

「(前回までのあらすじ)」

二世紀末、漢王朝は衰退し、中国全土は戦乱の日々が続いていた。両軍を敵に殺された張達は劉備率いる乱世を正さんとする義勇軍に参加し、兵士としての人生を歩んでいた。そんなある日、張達の部隊は出陣を命じられ、曹操軍と遭遇する。

「くちくち。俺もこれまた時、天まで届くかの如き大音声が響き渡った。

「おうりやあああつ! 蒸人張飛これにあり! 許褚、俺と一騎打ちせよ!」

「逆賊張飛、曹丞相はこの許褚が命に替えてもお守りいたします!」

許褚は戦を軽くくり出す。張飛は戦をささつかわずと愛用の蛇矛をびゅつと一突き。許褚はそれをはいじりて攻撃をくり出した。が、張飛はとくに計算済みであつたようで、許褚の手元を狙って斬りつけた。許褚は左手の中指を斬り落とされ戦を取り落としてしまつたが、許褚危うしと見て加勢にきた仲間の将・張達に戦を投げ渡され、一騎打ちに復帰した。これには張達に復讐した。これには張達の他に、同じく曹軍の将・徐晃も加わつた。

張達・徐晃の二将はともにも勇猛無比なる猛将であつた。しかし、一度に三人を相手にしながら張飛は一歩もひけをとらなかつた。魔神の如き形相で闘う張飛を眺め、張達は戦慄を覚えた。俺達の大將は人ではないのかもしれん。ふと気付くと周りの兵士達は戦いをやめていた。敵も味方も固唾を飲んでこの劇闘の行方を見守っている。

だが、ついに張飛の蛇矛がうなりをあげて張達を直撃、張達は許けき声をあげて落馬した。許褚・徐晃は驚いて、落馬した張達をかばいながら、応戦していたが、退却の銅鑼が鳴つたのでそれぞれの陣に退却した。張達も手近にいた劉備軍の

# 編集後記

☆高1のH・M君の輝かしい業績の数々……

一・コッポで10辛のカレーをたいたらげる。

二・逆パンジーに挑戦。「命知らず証明証」を手に入れる。

三・大雪の日、雪合戦に熱中し、筋肉痛に苦しむ。

★吹きたる夜風の中に浮き上がる金色の月。その戦士は白馬にまたがり頂きに立つ。その手にきらめく青白き剣。愛馬を駆りかける。斬! 斬! 斬! ミス……。

ウオオオ。一枚目すつて越せねえぞ。どうなつてんじや。正義が足りないのか……。

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」

「(苦悶する暴走の詩人) 必桶狭間の戦にも参戦していた今川の重臣葛山氏元の「葛山」は「くすやま」なのか。それとも「かずらやま」なのかどつてであらう。信玄の子葛山信貞の「葛山」とも同じなのだろうか。そういうのは氏元の娘の一人が信貞に嫁いだのだと、聞いたが……。」

「(うみたてたまゴ) (メッセーボードII)」

NYへ……洛星派か洛南派かはつきりしろ!

YKへ……純粋無垢なところがすこつといいね♥

KAへ……やらしいぞ!

MDへ……テストのための勉強なのは言わずもがな? 強なのは言わずもがな? (愛愛)

G「近頃調子はどうかね? モナミ?」

K「うん。小足払いの連打がきかなくなつてね。まあ、ア・アが少し強くなつたしいか」

U「ゴホッゴホッ……ましてすよ。私なんてア・ア・Aがつながらなくて」

「(持ちキャラを愛する男) (この目に何がうつるか)」